

SGH經過報告

埼玉県立浦和高等学校

報告者：松本剛明、小河園子

総合的な学習の時間で仮説を形成し外部機関との連携を活用して探究を深めた事例の紹介

- ◆総合的な学習の時間
- ◆国内の外部機関との連携
- ◆海外研修との関連
- ◆グローバル志向の取り組み
- ◆今後に向けて

総合的な学習の時間

全生徒を対象とした課題研究

1年次: 文献研究を基にした論文

2年次: アドバイザリーグループ(AG)での活動を基にして論文を書いている。

アドバイザーグループとは？

- ・2年生の総合的な学習の時間(週1時間)
- ・アドバイザーとなる教師が自由に設定したテーマごとに希望する生徒が集まる。
- ・テーマの沿った課題研究と論文作成を行う。その際、生徒各自がサブテーマを設ける。
- ・普段の授業では扱いきれない知的な探究活動となる。
- ・例年、40程度の講座が開講される。(2年生担当教師全員＋3年生担当で水曜日6時間目に授業のない教師が、原則として一人一テーマを開講する。芸術系、スポーツ科学系、語学系、科学系、一般教養系など多岐にわたる。担当教科の枠を超えることもある。)

事例1：徹底研究！日本の電力問題

→生徒も教師も文理融合

→研究機関と連携

→探究の成果を単行本として出版

指導過程

第1回～第8回 多角的な知識を得ながら、科学リテラシーを養う。
(国内について、世界各国について、歴史的視点、二項対立思考の克服)

第9回 中間発表(仮説の形成)

第11回～第12回 専門家の講義

第13回 実地踏査(仮説の検証)

第14回 最終発表

第15回 論文提出

論文のテーマ

- ◆ 高速増殖炉もんじゅを廃炉すべきか
- ◆ 日本のエネルギー政策における石炭火力発電所輸出の可能性
- ◆ 電力供給は誰が担うべきか
- ◆ 未来の日本のエネルギーミックスにおいて原発ゼロは可能か
- ◆ 再生可能エネルギーをどのようなシステムに基づいて使っていくかなど
- ◆ シェールガスについての考察

事例2：障害者スポーツとバリアフリー

→障害者スポーツとバリアフリーについて学ぶ

→イギリスで実際に調査

→“心のバリアフリーが大切”という学び

→文化祭や小学校との交流事業などで発表する

指導過程

第1回～第6回 調べる視点を教員が提供しつつ、リサーチをする。
(障害者スポーツ、パラリンピック、バリアフリーマインド、交通機関のバリアフリー、都市空間のバリアフリー)

第7回 中間発表(仮説の形成)

第8回 車いすラグビーについての講義と体験

第9回 実地踏査(仮説の検証)

第10回 論文提出

第11回 最終報告(さらにグローバルな視点を取り込む)

研修報告集より

- ◆個性を生かすイギリスの教育～個性の一つとしての障害者
- ◆イギリス人の福祉への意識の高さ(法→制度→行動)
- ◆ロンドンに見る伝統・人・自然の共存
- ◆ロンドンに行って気づいた日本のバリアフリー設備の健闘
- ◆バリアフリーマインドは観光客にも届く
- ◆チケットを買うことにはじまるパラリンピックの現実的な支援
など

事例3：シンガポール研究

→文献調査で仮説形成

→専門家の監修のもとに、現地での意見交換

→さらにグローバルな視点から探究

→グローバルリンクシンガポールで発表

指導過程

- 第1回～第6回 調べる視点を教員が提供しつつ、リサーチをする。
(多文化共存、経済的発展、歴史、教育制度)
- 第7回 中間発表(仮説の形成)
- 第8回 現地在住の専門家による指導(スカイプ)
- 第9回 実地踏査(仮説の検証)
- 第10回 論文提出
- 第11回 最終報告(さらにグローバルな視点を取り込む)

海外研修の日程と概要

March.24 羽田空港 → シンガポールチャンギ空港

March.25 Singapore City Gallery, National Museum of Singaporeを見学

March.26 現地高校生の案内で市内班別研修

March.27 南洋工科大学で日本語を学んでいる学生との交流

March.28 A*STAR所属研究者、井上博士の研究室訪問を見学

→ Tanglin Trust School インターナショナルスクールの学生との交流

March.29 宿舎 → ガーデنزバイザベイ見学 → 空港 → 羽田空港

研修報告集より

- ◆シンガポールに行って感じた内側からのグローバル意識の必要性
- ◆日本人に必要な、より国際的な視野
- ◆学校訪問で効率の良いカリキュラム、ITの活用に受けた衝撃
- ◆シンガポールに行って気づいた日本の技術力
- ◆ルールからマナーへ：多文化共生のキーワード
- ◆シンガポールで学んだ民族共生の工夫

など

グローバル的な取り組みの例

- ◆地産地消（地元のスーパーマーケットをフィールドに）
- ◆日本の武道を留学生に教える
- ◆地元の小学生に対するネットマナーの授業の開発

など

その他の外部機関との連携

- ◆ JICA(本部、ガーナ事務所、等)
- ◆ パナソニック財団
- ◆ 埼玉大学
- ◆ 東京大学
- ◆ 立教大学ESD研究所

今後に向けて

「主体的で深い、対話的な学び」に「多角的な」という要素を意識する。

→1年次1学期の総合的な学習の時間に活動的な要素を強化

課題研究のさらなる統合と発展

→2015年度の課題研究の成果をベースに、2017年度の海外研修を実施、
実地踏査を組み込む

発表の機会の保証

→外部での発表生徒を選ぶ際に、特定のAGからではなく、
全体から選べるような、校内予選のようなシステムの構築

知識構成型ジグソー法の紹介

* いわゆるアクティブラーニングの手法の中で、「多角的な」視点を育てるのに有効

* 埼玉県立浦和高等学校では、埼玉県教育委員会の指導のもと、組織的な研究を行って8年目。

* 総合的な活動の時間での運用や、各教科の取り組みを経て、SGHとのシナジーも生じつつある。その一端は、2017年6月 日発行、AERAでも紹介された。

* 本日は、浦和高校のSGHを素材に、皆さんにジグソー法を体験していただきたいと思います。

エキスパート活動 (AAA, BBB, CCC)

A SGH論文集

B 海外研修報告書、SGH特集

C 実況、白熱エネルギー講座

それぞれの素材を見ながら、
☑いいな、と思う点
？よくわからない点
↑こうすると良くなりそうな点を話し合ってください

ジグソー活動(ABC,ABC,ABC)

A SGH論文集

B 海外研修報告書、SGH特集

C 実況、白熱エネルギー講座

検討した点をもちより、

☑いいな、と思う点

?よくわからない点

↑こうすると良くなりそうな点

を話し合ってください

⇒組み合わせで発表の準備

クロストーク活動

それぞれのグループで発表します

⇒質疑応答に移行します

当日参加の皆様からの評価

✓ 良い点、？ 不明点、↑ 改善への助言

- ✓ 全員参加のための指導体制及び指導過程が確立され共有されている。
- ✓ 良質の資料にあたり、しっかりと研究した成果が上がっている。

？ 授業外の指導がどの程度なされているか？ 教員、生徒にとって負担ではないか？

⇒ 提出論文の分量について目安は設けているが強要はしていないので過剰な負担ではない。

？ 教員はどの程度関与しているのか？

⇒ グループによって差があるので、次の研究課題とし、可視化していきたい。

↑ 報告集の中に、指導過程や活動の意図、全体像の中での位置づけが示されるとわかりやすい。

↑ 優秀作品収録の末尾に、優秀作品に選ばれた理由と改善案を含む講評が付記されていると良い。